

日本独文学会第64回総会  
春季研究発表会

2010年5月29日(土)・30日(日)

第1日 午前10時より

第2日 午前10時より

会場 慶應義塾大学

(日吉キャンパス)

〒223-8521 横浜市港北区日吉4-1-1

連絡先：045-563-1111 (代表)

045-566-1099 (学会当日本部)

045-566-1221 (       "       )

参加費 1,500円 (学生会員は1,000円)

日本独文学会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-34-6 南大塚エースビル501

Tel./Fax 03 - 5950 - 1147

メールフォーム：<http://www.jgg.jp/mailform/buero/>

## 第1日 5月29日(土)

開会の挨拶 (10:00~10:05)

A会場

大谷 弘道

総会 (10:05~11:30)

A会場

- |                     |        |
|---------------------|--------|
| 1. 会長挨拶             | 前田 良三  |
| 2. 議長囑任             |        |
| 3. 庶務報告             | 保阪 靖人  |
| 4. 渉外委員会報告          | 森 芳樹   |
| 5. 会計報告             | 成田 節   |
| 6. 編集委員会報告          | 古澤 ゆう子 |
| 7. 企画報告             | 三瓶 慎一  |
| 8. 広報委員会報告          | 室井 禎之  |
| 9. データベース委員会報告      | 福本 義憲  |
| 10. 文化ゼミナール委員会報告    | 大宮 勘一郎 |
| 11. 語学ゼミナール委員会報告    | 岡本 順治  |
| 12. 教授法ゼミナール委員会報告   | 星井 牧子  |
| 13. ドイツ語教員養成・研修講座報告 | 境 一三   |
| 14. 「研究叢書」報告        | 青木 誠之  |
| 15. ドイツ語教育部会報告      | 太田 達也  |
| 16. 支部報告            |        |

- 議事
1. 2009年度決算書および2010年度予算案について
  2. 支部選出理事の囑任について
  3. 監事の囑任について
  4. その他

会員意見開陳

— 休憩 (11:30~14:30) —

(この間にドイツ語学文学振興会賞授賞式・総会，招待講演，  
ドイツ語教育部会総会・講演が行われます)

ドイツ語学文学振興会賞授賞式・総会 (11:30~12:30)

A 会場

招待講演 (12:00~13:00)

D 会場

**Paul Michael Lützeler**

(Washington University in St. Louis)

**„Bürgerkriegsdarstellungen im deutschsprachigen Roman der Gegenwart“**

ドイツ語教育部会総会・講演 (12:40~14:20)

B 会場

総会 (12:40~13:10)

講演 (13:20~14:20)

鹿毛雅治氏 (慶應義塾大学)

「学びと授業を問い直す——教育心理学の視点から——」

シンポジウム I (14:30~17:30)

B 会場

〈ドイツ語教育部会企画シンポジウム〉

外国語を学ぶ意欲を育てるために——学際的な視点から——

**Förderung der Motivation zum Fremdsprachenlernen**

— eine interdisziplinäre Perspektive —

司会：吉満 たか子，藤原 三枝子

- |  |       |
|--|-------|
| 1. 外国語学習における動機づけ：個人差の観点から                  | 廣森 友人 |
| 2. 協調・探究型アプローチの授業実践                        | 太田 達也 |
| 3. 複数外国語を学ぶ意欲を育てるための外国語教育                  | 大木 充  |
| 4. 学習を促進するための社会的な学習環境デザイン<br>——教育工学の立場から—— | 望月 俊男 |

5. ~~Der Baader-Meinhof Komplex: Buch—Film—Realität~~ Christian W. Spang  
 30日 (12:00~12:35) G 会場へ変更

シンポジウムⅡ (14:30~17:30)

C 会場

生誕 200 年ローベルト・シューマン——言葉と音楽

**Robert Schumann. Der 200. Geburtstag — Wort und Musik —**

司会： 関口 裕昭

コメンテーター： 掛谷 勇三

- |   |       |
|---|-------|
| 1. アイヒェンドルフの詩によるリーダークライス Op. 39<br>——「連作歌曲」としての解釈               | 岩川 直子 |
| 2. シューマンとハイネ——「詩人の恋 Op. 48」を中心に                                 | 関口 裕昭 |
| 3. ローベルトとクララ<br>——クララ・シューマンの作曲活動をめぐって                           | 山下 剛  |
| 4. ローベルト・シューマンのオペラ『ゲノフェーファ』の再評価の<br>可能性——マルティン・クーシェイの演出を手がかりとして | 佐藤 英  |

シンポジウムⅢ (14:30~17:30)

D 会場

項構造の交替——他言語との比較をもとに

**Veränderung der Argumentstruktur**

— **Deutsch im Vergleich zu anderen europäischen Sprachen** —

司会： 鈴木 直樹, 中山 豊

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| 1. 非人称受動を可能にするものは何か | 宮下 博幸 |
| 2. 事象動詞の非人称化をめぐって   | 高橋 亮介 |
| 3. いわゆる状態再帰の形成原理    | 大矢 俊明 |
| 4. S-型受動とドイツ語       | 鈴木 直樹 |

口頭発表：語学（14:30～17:05）

E 会場

司会：中山 純，森 泉

1. 完了形の文法化再考——文体の視点から—— 黒田 享
2. 日本語とドイツ語における名称に付随するジェンダー・イデオロギ  
ーの考察 西野 由起江
3. コーパスに基づくドイツ語文形成規則の分析 在間 進  
——方法論的考察と分析結果の中間報告—— カン・ミンギョン
4. Abenteuer japanisch-deutsche Lexikographie: Wolfgang Schlecht  
Das Große japanisch-deutsche Wörterbuch Irmela Hijiya-Kirschneireit  
— Voraussetzungen, Entstehung und Potential —

口頭発表：文学1（14:30～17:45）

F 会場

司会：和泉 雅人，山本 賀代

1. 哲学の危機としての「郵便危機」 徳永 恭子  
——バッハマン『マーリナ』における「郵便の問題」について——
2. „... ich schreibe Ihnen in höchster Angst und fliegender Eile ...“ 前田 佳一  
——インゲボルク・バッハマンの時間経験について——
3. ゴットフリートの『トリスタン』におけるリヴァリーンと 田中 一嘉  
ブランシェフルールのミンネ
4. エーリヒ・ケストナーのカバレット作品における他の作家の作品へ 高坂 朋子  
の諷刺的表現に関する考察
5. 〈奇跡〉と〈善〉の短篇『トンカ』 清原 明代  
——ムージル文学における「道徳的空想」の概念——

口頭発表：文化・社会1（14:30～17:05）

G 会場

司会：Mechthild Duppel-Takayama，岩下 真好

1. グリム，ベヒシュタインからマーラー《嘆きの歌》へ 山本 まり子  
——テキスト改変の起点としての作品論——

- |   |       |
|---|-------|
| 2. ベートーヴェン《第9》解釈の系譜<br>——ハインリヒ・シェンカーを中心に——                  | 西田 紘子 |
| 3. バイロイトのドイツ・ロマン主義に関する研究<br>——ジャン・パウルの理想郷から——               | 川西 孝男 |
| 4. 映画・自殺・ヒトラー ——ハンス＝ユルゲン・ジーバーベルク『ヒ<br>トラー, ドイツ生まれの映画』について—— | 荒井 泰  |

### ポスター発表 (13:00～14:30)

#### H会場

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

- |  |                        |
|--|------------------------|
| ・ Wie wirken E-Mails japanischer Deutschlernender auf deutsche Muttersprachler?  | Axel Harting           |
| ・ Die Rolle der kritischen Reflexion über das eigene Lehrverhalten im Fremdsprachenunterricht<br>— eine Projektvorstellung und eine methodische Diskussion — | 石塚 泉美                  |
| ・ Sprachlernmotivationsbiographien   | Julia Christine Schaaf |
| ・ Leben in und gegen die Diktatur<br>— Wie die Menschen die Diktatur ignorierten —   | Frank Riesner          |
| ・ 宗教改革時代における印刷ビラ<br>——読み聞かせのコミュニケーション——  | 芹澤 円                   |
| ・ ドイツにおけるトルコ系移民の若者のことば<br>—— „Kanak Sprach“の言語的特徴——  | 田中 翔太                  |
| ・ グリム『ドイツ伝説集』における配列と四大要素   | 植 朗子                   |

ドイツ語教育部会 「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表 (14:30～17:30)

#### J会場

### 懇親会 (18:00～20:00)

グリーンズマルシェ (慶應義塾大学日吉キャンパス食堂棟2階)

会費: 5,000円 (学生会員, 非常勤会員は3,000円)

## 第2日 5月30日(日)

### シンポジウムⅣ (10:00~13:00)

D会場

心態詞の音声と意味：新しい研究手法の開発にむけて

#### **Aussprache und Bedeutung der Modalpartikeln: Zur Entwicklung neuer Untersuchungsmethoden**

司会：岡本 順治, Angelika Werner

- |   |                          |
|---|--------------------------|
| 1. schon の韻律的特徴と意味・機能<br>Prosodie und Bedeutung der Partikel <i>schon</i> | 生駒 美喜<br>Angelika Werner |
| 2. 幼児はどのようにして命令文の中で <i>doch</i> を使うようになるか？                                | 牛山 さおり                   |
| 3. 心態詞 <i>mal</i> の意味・機能<br>——話し手・聞き手の信念を手がかりに——                          | 筒井 友弥                    |
| 4. 心態詞を使った発話の意味を実験的に捉える試み   | 岡本 順治                    |

### シンポジウムⅤ (10:00~13:00)

C会場

アーカイヴの思想をめぐって

#### **Über die Philosophie des Archivs**

司会：桑川 麻里生

- |  |       |
|--|-------|
| 1. ヴァルター・ベンヤミンの美術論と歴史的時空間の検索術                        | 松井 尚興 |
| 2. 舗装道路と「印刷された問題(printed matter)」——アーカイヴ・モデルとしての芸術作品 | 上崎 千  |
| 3. 筆跡というインデックス<br>——世紀転換期における手書き文字コレクションと筆跡学         | 遠藤 浩介 |
| 4. 記憶の伝達可能性——ゲルハルト・リヒターの絵画連作『1977年10月18日』を手がかりに——    | 林 志津江 |
| 5. 集合的記憶の私的記憶化——中世ヨーロッパにおける「白鳥の騎士伝説」の貴族家系の年代記への移入——  | 會田 素子 |

口頭発表：文学2（10:00～12:35）

E 会場

司会：香田 芳樹，石原 あえか

1. ホーフマンスタール『影のない女』  
——「しるしと詩句」に向かう言葉—— 安徳 万貴子
2. 《ナクソス島のアリアドネ》における変容——瞬間に宿る永遠—— 野口 方子
3. ザクセン類型喜劇における「裁き」の構造と諷刺——クヴィストル  
プの『山羊裁判』とゴットシェート夫人の『遺言状』を例に—— 小林 英起子
4. ゲルステンベルク『ウゴリーノ』  
——疾風怒濤最初期のダンテとシェイクスピア受容—— 今村 武

口頭発表：文学3（10:00～12:35）

F 会場

司会：八木 輝明，鈴木 伸一

1. 芸術家と原像——Fr. シュレーゲルとロマン派の視点から—— 毛利 真実
2. 異教との架け橋——ボブロフスキーの短編『D.B.H.』について—— 永畑 紗織
3. Schweigen des Verstummten. — Stille Rebellion und aggressive  
Gehorsamkeit in Thomas Bernhards Drama „Ein Fest für Boris“ — Reika Hane
4. Krieg und Frieden bei Peter Handke Leopold Federmair

口頭発表：ドイツ語教育（10:00～11:55）

G 会場

司会：Marco Raindl，北條 彰宏

1. コンテンツとタスク中心のドイツ語教授法  
——初習ドイツ語学習者が文法能力とコミュニケーション能力  
を統合することは可能か？—— 濱野 英巳  
Michael Schart
2. „Sprachaufmerksamkeit“ im Grammatikunterricht:  
Überlegungen zur Vermittlung des Artikelgebrauchs im Deutschen Angela Lipsky
3. Wie wurde das Lernverhalten unserer Studierenden durch Testlernen  
geprägt? — Anregung zu einer Auseinandersetzung mit dem Thema  
„Washback-Effekt“ in Japan. — Ralph Degen

口頭発表：文化・社会2（12:00～12:35）

G 会場

司会：Marco Raindl，北條 彰宏

1. Der Baader-Meinhof Komplex: Buch – Film – Realität Christian W. Spang



## ブース発表（11:30～13:00）

I会場

（ブース発表は途中での出入り自由です。）

クラウドを活用したドイツ語の授業  
——Google のサービス群を中心に——

三澤 真

## ドイツ語教育部会 「大学ドイツ語入試問題検討委員会」 展示・発表（10:00～13:00）

J会場

## 閉会の挨拶（13:00-13:05）

C会場

伊藤 行雄

学会期間中、上記のプログラムに加えて、下記の展示が行われます。

- 書店・出版社等による各種展示

- 関口存男の足跡—関口存男語学文例集を中心に—

関口存男は生前、研究資料として英独仏他の言語の文例を哲学・文学・科学などの書籍や新聞記事から写し取っていました。枚数約 30,000、ファイル数 88 巻におよぶこの膨大な原資料はその後、ご長男である関口存哉さんのご尽力により分類・整理され、内外の研究者の協力も得て、「関口存男語学文例集」という形で一般に公開されることとなりました。本展示では慶應義塾大学日吉図書館に収蔵されているこの文例集を中心に、その偉大なる足跡を辿るべく、存男ゆかりの品々をご紹介します。

- アーカイヴの思想と仕事—慶應義塾大学アートセンター・アーカイヴセクションの作業現場から—

慶應義塾大学アート・センターでは、日本の現代諸芸術に関する資料・文献を蒐集しながら複数のアーカイヴを構築するとともに、アーキヴィストの養成も行なっています。本展示では、アーカイヴの収蔵資料の中から、「ドイツ語圏」および「ヨーロッパ」に関連するものを中心にご覧いただくと同時に、「歴史の作り上げられる工房」としてのアーカイヴという装置自体もご紹介したいと考えています。